創造的な書の学びと表現を目指して

教育学部　国語領域　　講師　土佐　弥

研究シーズの概要

私は書道を専門としています。書道には様々な領域がありますが、私は書道教育、とりわけ高等学校芸術科書道における「臨書」の学習方法に関心をもって研究しています。臨書とは、評価の定まった「古典」を手本として書く、書道の中心的な学習方法の一つです。

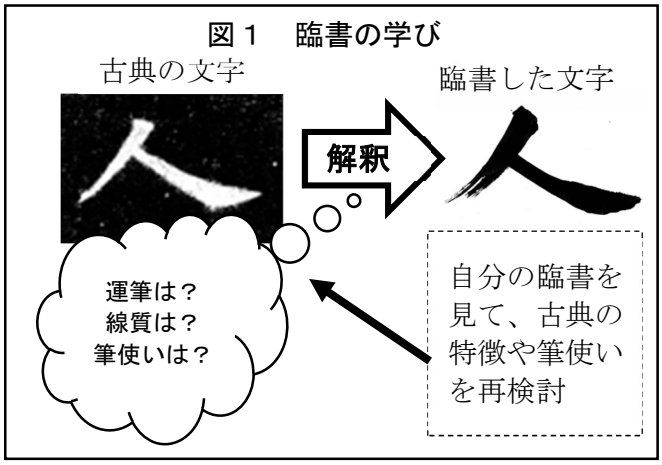


図１　臨書の学び

「書道」というと、どのような学びをイメージするでしょうか。お手本の字形を追って、それに近づくために繰り返し書く――そんな修業的で、やや受動的なイメージがあるかもしれません。臨書も、一見するとお手本という「答え」にいかに近づくかが重視され、そこには学習者の思考の入り込む余地がないかのように思うかもしれません。しかし、臨書には学習者による「解釈」が不可欠なのです。というのも、古典の文字を見ても、その筆者がどのように筆や腕を動かしたのか、どのような筆使いによってその線を生み出したのか、そのすべてを、目に見える文字そのものからは直接知ることはできません。学習者は、古典の文字からそれらを想像し、考え、実際に書くことを通して古典を捉えていきます。つまり臨書は、単に手本を受動的にまねるのではなく、古典を見て、考え、書き、さらに自分の臨書表現を省みて古典を捉え直すという、能動的、創造的な営みでもあります（図１）。


図２　毎日展出品作品「須尽歓」

一方で、学習者が自分自身で古典を解釈することは容易ではありません。そこで私は、同じ古典を異なる書き手が臨書した「臨書例」を教材として活用することで、学習者に古典の多様な見方を示し、自ら古典を解釈し、それを臨書表現に結び付けるための学習方法について研究しています。

また、私自身、書作品の制作を行っています。比較的文字数の少ない漢字作品（図２）や近代詩文書を中心に発表しています。ここでも目指しているのは、誰かの表現をそのまま模倣することではなく、「自分なりの表現」です。もちろん、師匠に憧れたり、他者の作品を参考にしたりすることもありますし、そもそも、「自分なりの表現」といっても、簡単にできるものではありません。しかし、目指すところは「自己表現」であり、書作もまた創造的な営みだと考えています。

書道教育の研究と書作。その両面を通して、少しでも書道の創造的な側面を伝えることに貢献できればと思っています。

【利用が見込まれる分野】　学校教育（書写・書道）、教員研修、生涯学習、文化・芸術活動

研究者プロフィール

土佐　弥　／　トサ　ワタル



メールアドレス　tosa.wataru@kagawa-u.ac.jp
所属学部等　教育学部　国語領域
職位　講師
学位　修士
研究キーワード　書道教育／書作（漢字・近代詩文書）／北魏の書

本研究に関するお問い合わせは、香川大学産学連携・知的財産センターまで
直通電話番号：087-832-1672　　メールアドレス：ccip-c@kagawa-u.ac.jp

問い合わせ番号：ED-26-003